

# 中興の祖 酒井忠徳と庄内藩校致道館

⑦

忠徳は多難な時代に生まれます。

藩政改革や藩校の創設に果敢に向き合いました。

その一方で教養にあふれ、

和歌俳諧、鑑刀、書画【写

真1】にも高い見識を持つ、

洒落な趣味人でもありまし

た。

展覧会場では、自作の短

刀や菓子器、花入れなど変

わった品々を展示して人柄

に触れています。本稿で

は数々の逸話から忠徳の人

間性を探ってみたいと思

◇

◇

教育を重視した藩主、中

興の名君と聞くと、真面目

で堅い人物を想像してしま

いますが、忠徳は違ってい

ました。家臣との謁見の時

延泊してほしくて仮病を使

ちろん緊急事態ではありま

す。

間には狩猟へ出掛けたり、百

間堀で花火をあげたりして、

よく家臣に叱られています。

幼年藩主時代か、若気の至

りかと思いましたが、40代

後半には、里帰りした娘に

持って立っていました。も

ちろん緊急事態ではありま

す。

忠徳は深夜に大きな声で「早

く来い！」と家臣を呼びつ

けます。宿直の家臣たちが

急いで駆けつけると、忠徳

は手持ち用の口ウソク台を

持って立っていました。も

ちろん緊急事態ではありま

す。

忠徳は深夜に大きな声で「早

く来い！」と家臣を呼びつ

けます。宿直の家臣たちが

急いで駆けつけると、忠徳

は手持ち用の口ウソク台を

持って立っていました。もち

## 忠徳はどんな人？家臣に恵まれて

って、家臣に諭されるエピソードもあります。

もっと驚くのは、大どろ

ぼう「鼠小僧」の出没に家

臣が警戒していた頃のこと。

忠徳は深夜に大きな声で「早

く来い！」と家臣を呼びつ

けます。宿直の家臣たちが

急いで駆けつけると、忠徳

は手持ち用の口ウソク台を

持って立っていました。もち

ろん緊急事態ではありま

す。

忠徳は深夜に大きな声で「早

く来い！」と家臣を呼びつ

けます。宿直の家臣たちが

急いで駆けつけると、忠徳

は手持ち用の口ウソク台を

持って立っていました。もち

ろん緊急事態ではありま

す。

忠徳は深夜に大きな声で「早

く来い！」と家臣を呼びつ

けます。宿直の家臣たちが

急いで駆けつけると、忠徳

は手持ち用の口ウソク台を

持って立っていました。もち

ろん緊急事態ではありま

す。

忠徳は深夜に大きな声で「早

く来い！」と家臣を呼びつ

けます。宿直の家臣たちが

急いで駆けつけると、忠徳

は手持ち用の口ウソク台を

持って立っていました。もち

ろん緊急事態ではありま

す。

せん。忠徳の側近で最も偉い近習頭取の白井治部右衛門だけが刀を持って駆けつけました。藩主の寝室に刀を持って入ることは厳禁ですが、忠徳は、駆けつけた家臣のなかで白井だけが武士の心構えがあると言っていました。

家臣たちを驚かせたかったのか、試そうとしてみたのか、忠徳の真意はわかりませんが、側近もさぞ大変だったことでしょう。忠徳は、近習を定員に関係なく召し抱え、能力により配置換えしていたので、多くの家臣を見知っていたといえます。自作の竹札には、家臣の氏名と石高を記していました【写真2】。

また、自分の意に添わない家臣も免職したりせず、長く仕えさせていたという逸話もあります。

忠徳が逝去してから50年



【写真2】藩士名札 竹板の名札は全部で7組あり、藩士の氏名と石高を忠徳が自書したと伝わる

以上が過ぎた元治元（1808）64）年、幕末動乱期のことです。酒井家は、幕府より長州征討の先鋒を命じられました。その時、13代忠篤（忠徳の曾孫）の元を、酒田の本間光丘の曾孫・光美が訪れ、1万両と証書数十枚を差し出しました。それは、忠徳が非常事態に備えて光丘に預けたお金だったのです。

忠徳は享和2（1802）年当時、白井矢太夫を重用して光丘を遠ざけたようですが、実は側近の誰にも教

寛政期の農政改革で庄内藩の財政が好転し、忠徳は江戸上屋敷が神田にあったことから「神田大黒」と称されるまでになりました。致道館建設中の何かと物入りな時、同時に先々を見越して方が一に備えていた忠徳の危機管理能力には脱帽ですが、皆が遠ざけていたと思っていた光丘との信頼関係にも驚かされます。

致道博物館主任学芸員・佐藤淳



酒井家庄内入部400年



【写真1】酒井忠徳画「大黒天」（版画） 軽快な仕草で豊かな笑みを湛える大黒天